２月号　営農インフォメーション

**管理のポイント**
水稲・・・品種固有の特性維持のために、全量種子更新を行ってください。
麦　・・・排水対策を確実に行ってください。２月下旬～３月上旬は穂肥の施用時期です。
野菜・・・春作に向けて、作付け計画の作成・寒起こしの適期です。

## 水稲

【種子更新】
種子更新は、品種特性の確保と品質向上の為の必須事項です。
自家採種を毎年繰り返していると、品種の特性が次第に薄れ収量も低下します。米卸し業者や流通段階ではＤＮＡ鑑定を随時行っており、品種特性の確保は米の販売において必須事項となっています。

## 麦

○【生育状況】
11 月上旬までに播種したほ場では、11 月中旬から下旬の気温が高かったため、生育はすすんでいます。しかし、11 月中旬以降に播種したほ場では、12 月中旬以降の気温が低く経過した為、生育は平年並みからやや遅れています。11 月初旬に播種されたほ場では１ｍｍ程度の幼穂が見られています。

写真　排水対策が徹底された圃場

【今後の管理】
○ 排水対策の徹底
積雪は少ないものの、降雨・降雪により圃場条件によっては、湿気た圃場が見受けられます。湿害は、根の伸びを阻害し、施した肥料の吸収を悪化させます。排水対策の不十分なほ場では、今後も分げつが増えず減収にもつながります。そのため、徹底した排水対策を実施するよう指導してください。

①積雪・降雨後に、ほ場を見回って水がたまりやすい個所を確認しましょう。
②溝に水がたまっている場合は溝さらえを行って、排水を促しましょう。
③定期的にほ場を巡回し、溝にある障害物などを除去するなどして、溝を補修しましょう。

○ 穂肥の施用
穂肥は、有効茎数や一穂あたりの粒数を増やす効果があり、増収のために必要な作業です。２月下旬～３月上旬にかけて穂肥の施用時期になります。ただし生育状況に合わせ穂肥の施用量の調節が重要となります。分施体系（基肥-追肥-穂肥-実肥）で、追肥が施用できていないほ場は、分げつ数確保のために、速やかに追肥を施用するよう指導してください。

【全層施肥】　化成肥料 20-0-10　　20 kg/10a
【省力型分施】セラコート R2500　　30 kg/10a
※　基肥に麦パンチ（一発肥料）を散布している場合は穂肥の施用は必要ありませんが、葉色の低下が著しい場合は、追肥を検討する必要もあります。

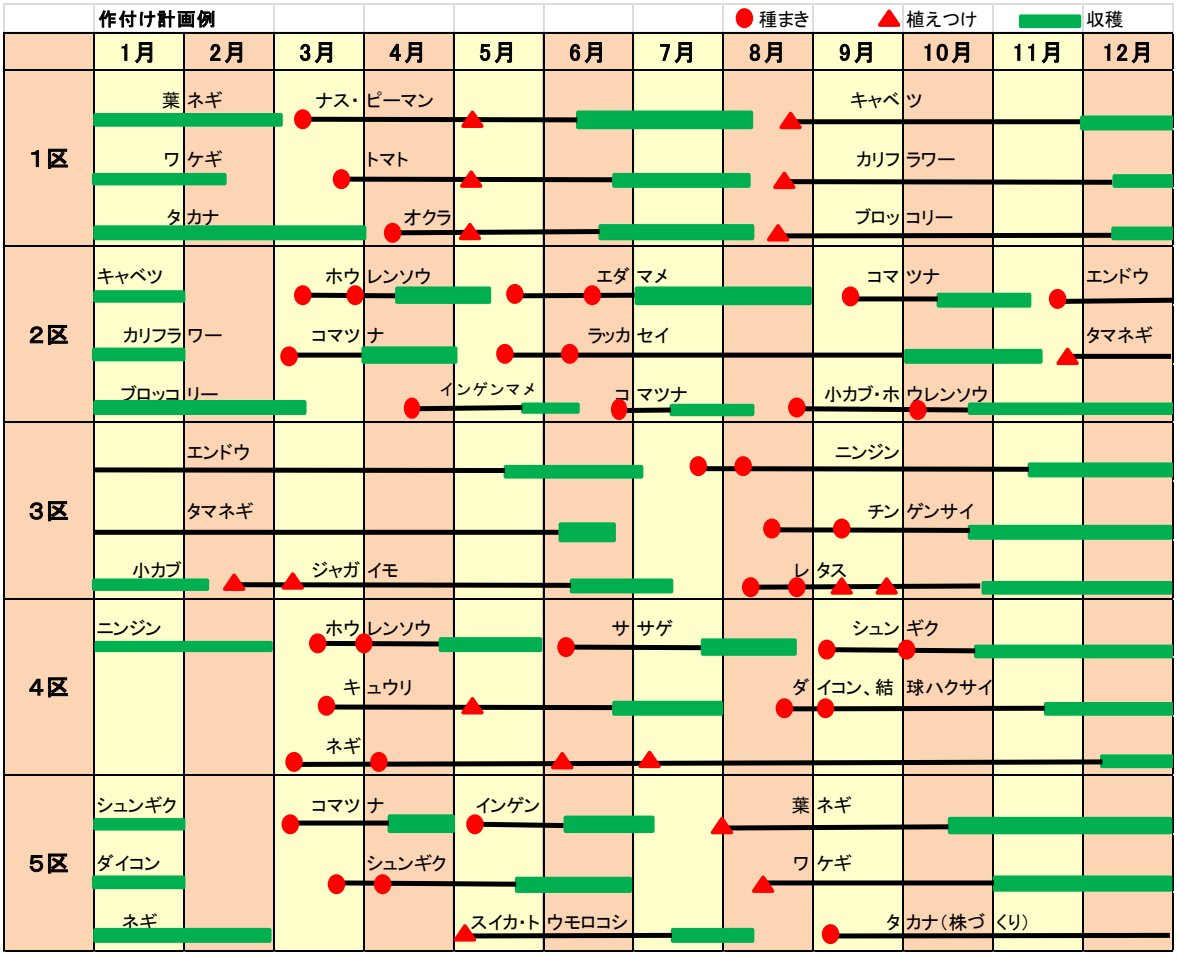
野菜【作付け計画を立てるうえでのポイント】

① 栽培時期にあった野菜・品種の植え付けを行う

野菜には播種、植付けに適した時期があるため、同じ野菜でも、品種によって栽培時期を確認しなくてはいけないものがあります。例えばホウレンソウには春播用と秋播用があるため、播種時期により品種を選ばなくてはいけません。

② 連作は避けてください

野菜は同じ場所で同じ種類・あるいは同じ科目の野菜を続けて栽培すると、生育が極端に悪くなったり、枯れたりします。これを連作障害といい、連作障害を回避するためには連作を避けることや、やむを得ない時は接ぎ木苗を植えるなどの対策が必要です。基本的には、畑をいくつかのエリアに分割し同じ場所で同じ野菜を栽培しないようにローテーションを組んで作付けします。

【連作障害の出やすい野菜と出にくい野菜】

| | | |
|---|---|---|
| 連作障害の出やすい野菜 | エンドウ、ナス、スイカ | 7年以上休栽 |
| | ゴボウ、トマト、ピーマン、サトウダイコン | 5～6年休栽 |
| | ダイズ、シロウリ、ナガイモ、サトイモ | 3～4年休栽 |
| | キュウリ、ジャガイモ、インゲン | 2年休栽 |
| 連作障害の出にくい野菜 | サツマイモ、カボチャ、ニンジン、タマネギ、コマツナ、シュンギク、ニンニク、ショウガ、フキなど | |